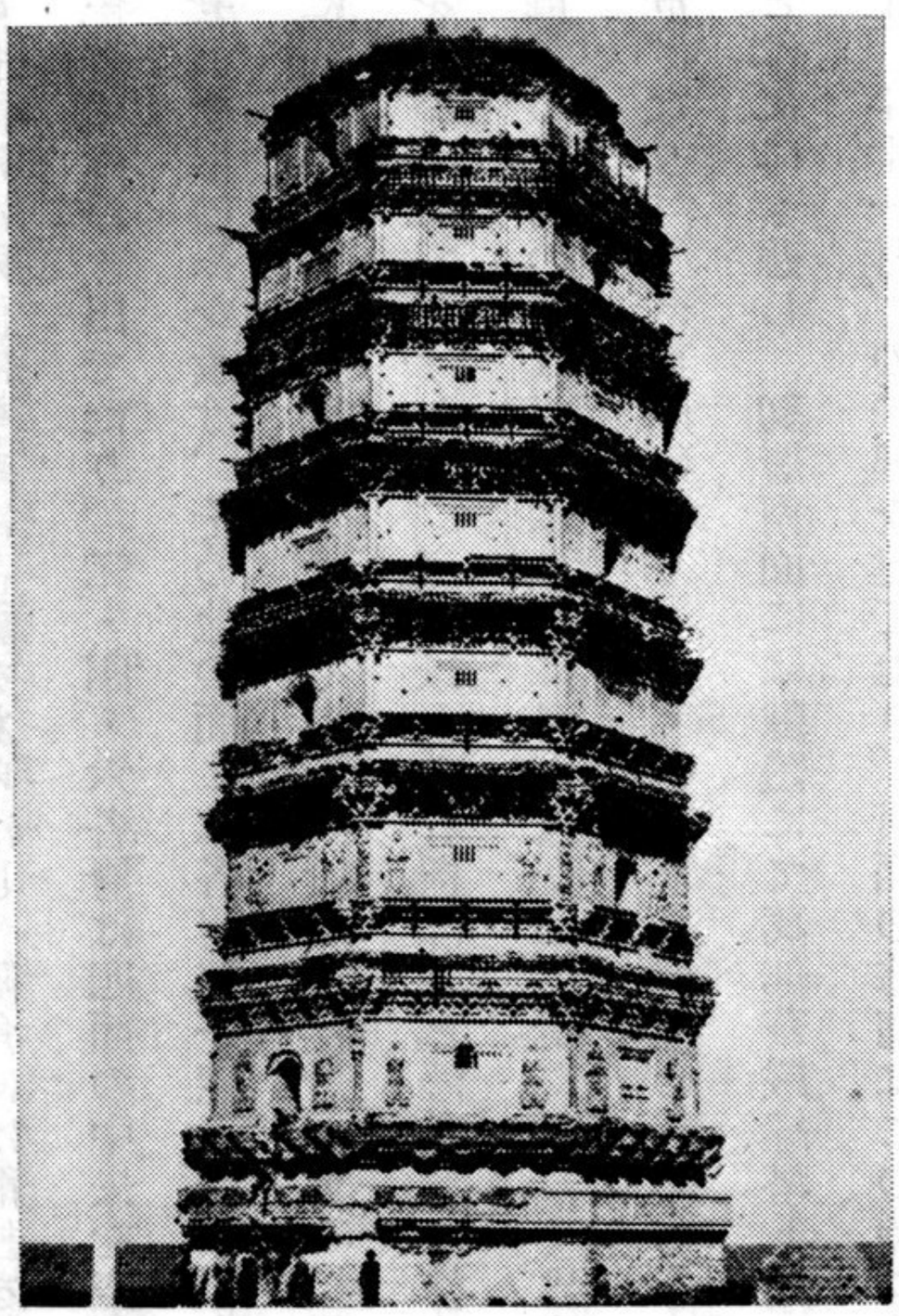
歸路舊城を觀る。街路狹隘、目拔きの通りは肩摩轂擊の光景なり。町の名刹として知らるる大・小招、五塔寺等を巡覽して、その結構の宏壯に驚嘆す。俺荅汗の活躍、康熙帝の壯圖など思ひ合はさるゝ節多し。これらの事すべて別に記すべし。

九月九日原田・村田兩君と余と、三人六疊の一室に詰め込まれたる神戸館の一夜も明けぬ。疲れたる身には不平いふさへ物うく、甘睡したりと覺ゆ。燦々たる光を浴びて、仕合せよきを喜びながら政府に往く。別室四疊半三人組の小野・今西・島崎氏も來れり。けさは城東五十支里に在りといふ白塔の調査に往かむとするなり。このあたり治安宜しからずとて、大園氏の配慮にて、武裝嚴めしき蒙古兵十數人を護衛とし、トラックにて前行せしめ、大園氏を合せたる一行七人、二臺の自動車にてその後に從ふ。午前十時なり。白塔の名は綏乘にも見え、歸綏縣東五十里に位し、遼の豐州なりと記せることは、曾て和田氏の豐州天德軍の位置についての論述中に紹介せられ、出塞紀略、奉使俄羅斯行程錄、さてはポズネーエフの蒙古及び蒙古人にもこの塔につきて記したり。厚和の前驛なる白塔の名はこれに因めるにて、驛を西に出て間もなく野中に聳ゆる塔影を、昨日は車中より望見したるなり。車は東々北に向ひて走る。沿道ポプ



五圖　厚和白塔